

「教育臨床総合研究11 2012研究」

平成23年度の基礎体験領域の取り組みについて

A Report of Approaches on the “Basic Experience Area” in 2011

長 澤 郁 夫*	藤 田 耕 一*
Ikuo NAGASAWA	Koichi HUIITA
山 本 幸 市*	福 間 敏 之*
Koichi YAMAMOTO	Toshiyuki FUKUMA
村 上 幸 人*	境 英 俊**
Yukito MURAKAMI	Hidetoshi SAKAI

要 旨

島根大学教育学部の教員養成カリキュラムである「1000時間体験学修」を実施してから8年が経過し、1000時間体験学修を修了した5期目の卒業生を送り出すことができた。

ここでは、平成23年度の「1000時間体験学修」における基礎体験領域の取り組みの概要、さらには基礎体験におけるアンケートから見た成果等について報告する。

〔キーワード〕 基礎体験領域、基礎体験におけるアンケート、成果と課題

I はじめに

「1000時間体験学修」は、1000時間に及ぶ体験学修を卒業要件として必修化した教育課程であり、「基礎体験」「学校教育体験」「臨床・カウンセリング体験」の3つの体験領域から構成されている。

基礎体験領域は、小・中学校等での学習支援、学童保育、地域イベント、社会教育などの教育活動や地域活動への参加を通じて、教師に必要な資質の土台となる社会性や豊かな人間性を養うものである。さらに、子ども、地域、学校と主体的に関わり、多様な体験もとにした教育実践力を育むものである。基本的な流れは、各事業所が行う様々なプログラムの中から、興味・関心のある体験活動に参加し、活動を通して自分の課題に「気づく」、その課題の解決に向けた活動の方向性を「つかむ」、活動への取り組みを「深める」という段階を経て進めていくものである。また、活動にあたっては附属教育支援センター専任教員が、事前・事中・事後指導にあたり、学生の学びがより充実したものになるように支援を行い、学生は体験で得た学びを4年間で積み上げていく。

*島根大学教育学部附属教育支援センター専任基礎体験領域担当

**島根大学教育学部附属教育支援センター長（健康・スポーツ教育講座）

また、活動を通して身につけさせたい資質・能力として10の力（学校理解，子ども理解，教科の基礎知識・技能，学習支援の指導技術，リーダーシップ・協力，社会参加，コミュニケーション，探求力，社会の一員としての自覚，リテラシー）を設定しており，評価の具体的観点としている。

各活動の事後指導や各基礎セミナーの振り返りの際には，これらの観点をもとに活動記録票の振り返りシートに自己評価をさせ，自己認識や課題意識の深化などの自己成長を促している。

Ⅱ 基礎体験領域における取り組みの経緯

1000時間体験学修がスタートした平成16年度から平成23年度までの，8年間の基礎体験領域における取り組みの経緯と改善点を表1にまとめた。平成23年度の改善として実習セメスター学外教育体験と，各学年の基礎セミナー実施の2点を挙げている。

実習セメスターでは，平成23年度から母校での体験も取り入れ，学生が直接母校に連絡を取るとともに，附属教育支援センター専任教員が実習セメスターの趣旨の説明を，受け入れ先の学校に行った。また，専任教員が受け入れ先の学校を訪問し，学生の活動の様子を見たり，情報交換を行ったりすることで，本学部の基礎体験活動をより一層受け入れ先の学校に理解していただくことができた。

各学年の基礎セミナーについては，特に3年生の応用期セミナーにおいて，学校教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの成果と課題を今後の学校生活，あるいは将来にどう生かすのか，また，実習セメスターが自分にとってどのような力になったのか協議した。さらに，応用期セミナーのグループ編成にあたっては，志望校種別に分かれて協議を行った。教員採用試験に向けてどのように取り組んでいけばよいのか話し合っているグループも多数あり，有意義な時間を過ごすことができた。

表1 8年間の基礎体験領域における取り組みの経緯と改善点◎

	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
事業所との連絡協議会	－	－	○	◎改善	○	○	○	○
実習セメスター学外教育体験	－	－	○	○	○	○	○	◎改善
ビビットひろば	－	○	○	○	○	○	○	○
事前・事後指導の実施	－	－	○	○	◎改善	○	○	○
各学年の基礎セミナー実施	－	－	○	○	◎改善	○	◎改善	◎改善
だんだん塾講演会(サポート・マイスター講演会)	－	－	○	○	◎改善	○	◎改善	○
基礎体験活動記録票	○	○	◎改善	○	○	○	◎改善	○
入門期セミナーⅠ	△(試行)	○	◎改善	◎	◎	◎	◎改善	○
基礎体験合同説明会	－	－	○	○	○	○	○	○
実習セメスター説明会	－	－	○	○	○	○	◎改善	○
社会教育施設との意見交換会	－	－	－	－	○	－	－	－
学内資格認定（3資格）	－	－	－	－	○	○	○	○
卒業生及び就職先への聞き取り調査					△(試行)	－	－	－
専任教員数	2名	4名※1	4名	4名	5名※2	4名	4名	5名

(注) ※1 1名は鳥取県から ※2 1名は特任教員

Ⅲ 平成23年度の取り組み

《末尾に資料として「平成23年度基礎体験領域における年間活動実施一覧表」を掲載》

1. 基礎体験活動

(1) 基礎体験活動への参加実績

今年度は、表2のように、延べ2500名近くの学生が、島根県・鳥取県内で体験活動を行った。受入団体の年間活動募集総数も511件であり、幅広い分野から多様な体験活動が募集され、募集数も年々増加している。学生は自己基準をもとにこれらの活動を選択し参加している。

また、卒業要件とされる基礎体験400時間に対し、今年度卒業生の平均体験時間は707時間であり、平均300時間も多く基礎体験に取り組んでいる。このことから学生自身が体験学修の有意義感を理解し、積極的に体験を積み重ねている学生が多いことがわかる。

表2 基礎体験活動への参加実績

	H19実績	H20実績	H21実績	H22実績	H23実績
受入れ団体数	225	226	266	295	277
募集活動数	369	451	475	504	511
学生参加活動数	341	338	340	375	400
参加学生延べ数	2012	1898	1953	2397	2478

さらに、「松江市サタデースクール」や「出雲ウイークエンドスクール」等の基礎学力向上事業での支援活動にも継続的に取り組んでいる(表3)。現場の教師や事業所塾長との連携の下に、多くの学生が地域の子どもの教育実践に積極的に参加している。教員志望の学生にとっては、この活動は貴重なものであることは言うまでもなく、子どもに対する言葉がけや関わりについて体験活動を通して培い、事後指導の様子からも自己の成長が実感できているように見える。

表3 土曜日を利用した学力向上事業への参加実績

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
出雲ウイークエンドスクール	25	32	40	31	31
松江市サタデースクール	95	105	88	64	65
合 計(人)	120	137	128	95	96

しかしながら、基礎体験活動に参加した学生に聞いてみると中には、「子どもとの接し方」を課題に挙げる学生が多い。「子どもに適切な支援をどのように行えばよいのか」「ほめ方や叱り方はどうすればよいのか」など様々な不安や悩みを抱えている学生もいる。基礎体験セミナーでのグループ協議の中でも、このような話題は時々出るが、友達や先輩から適切なアドバイスをもらうことによって、次への活動では少しでも自分の力量のステップアップとなっている。

(2) だんだん塾(事前・事中・事後指導)

基礎体験活動を行う際には、必ず30分ずつの事前・事後指導を行っている。活動が長期にわ

たる場合は事中指導も行う場合もある。事前指導においては、体験活動の概要を知らせるとともに、活動の参加理由を確認し、活動を通して何を学び、どんな力をつけたいかなどの目的を明確にさせている。また事後指導では、活動の振り返りを通して自分の成長や課題を確認したり、他の参加者と学びの共有化を図ったりすることにより、体験学修の有意義感を持たせるように努めている。また、学生から出された課題に対しては、専任教員がアドバイスを送り今後の活動に向けての支援を行っている。これらの指導は5名の専任教員が地域割により分担して行っている。

毎回の事前・事後指導に費やす時間は専任教員にとって多大であるが、基礎体験活動の質の向上や意欲の継続には欠かせない活動である。

(3) だんだん塾講演会

今年度は4回のだんだん塾講演会を開催し、多数の学生が参加をした(表4)。第1回だんだん塾では1年生が参加をし、今後の基礎体験活動において自分たちで企画・運営していく上で、どのようなことが大切かを2週にわたり学んだ。第2回だんだん塾では最近の学校現場において、特別支援教育へのニーズが高まっている中、特別支援教育の重要性や具体的な事例・教師としてのあり方等を学んだ。また、第3回だんだん塾では、「話す力」ということで、自分の考えや思いを相手にわかりやすく伝えるためのテクニックや心がけなどを多く学んだ。第4回だんだん塾では、「書く力」ということで、分かりやすい文章を書くためのポイント等を教わった。



だんだん塾講演会は、これから教員採用試験や就職活動に向かおうとする学生にとって参考になるものが多く、来年度以降も数多くの学生が参加することを期待している。

表4 だんだん塾講演会の開催実績

回数	月 日	講演者	講演テーマ
第1回	7月 13・20日 (水)	島根大学生涯学習 研究センター准教授 日野伸哉先生	企画力UPセミナー ～子どもを対象にした企画・立案のポイント～
第2回	12月7日 (水)	松江市発達・教育相談 支援センター指導主事 梅田英樹先生	知ること・理解しようとするこ、敬意をもつこと・まねようとするこ
第3回	1月18日 (水)	山陰放送アナウンサー 山根伸志先生	自分の思いをのせたコミュニケーション
第4回	2月23日 (水)	山陰中央新報社 論説副委員長 高尾雅裕先生	きちんと自己表現できる社会人になるために！～「書く力」を鍛える～

(4) 専任教員による日常相談活動

学生からの要望で、不定期ではあるが次のような日常相談活動を行った。

- 1) 基礎体験活動における個別相談
- 2) 生活面での個別相談
- 3) 教員採用試験に向けての願書添削や面接指導, 実技指導

2. ビビットひろば

ビビットひろばとは、松江市内の小学生の土曜日の居場所づくりのために活動を提供する目的で、教育支援センター主催で開催してきた基礎体験の事業である。今年で8年目を迎え432人もの児童から参加申し込みがあった(表5)。学生たちは、どのような活動をしたら子どもたちに喜んでもらえるのか、またそのためにはどのような事前準備が必要なのかなど、毎週のように話し合いを行った。



こうした活動が学生自身の企画力, 指導力, コミュニケーション力の育成にもつながり, 回を重ねるごとに活動への自信が見られるようになった。

また, 各専攻からも学生への専攻別体験として児童向けの講座を毎回開催してもらい, 専攻での学びを生かした活動を提供してもらっている。

表5 ビビットひろばの開催実績

前 期	実施日時・参加者数・実施講座名
第1回	平成23年6月25日(土) 9:30～12:00 申込み者 97名 開催講座【教育支援センター・英語・健康スポーツ】
第2回	平成23年7月23日(土) 9:30～12:00 申込み者 94名 開催講座【教育支援センター・健康スポーツ・技術・家政】
後 期	実施日時・参加者数・実施講座名
第1回	平成23年11月12日(土) 9:30～12:00 申込み者113名 開催講座【教育支援センター・英語・健康スポーツ・技術・家政】
第2回	平成23年12月17日(土) 9:30～12:00 申込み者128名 開催講座【教育支援センター・英語・健康スポーツ・環境寺子屋】
出前 ビビット	平成23年10月16日(土) 9:30～16:00 島根県立少年の家「サン・レイク」のサン・レイクフェスティバルに出展

3. 各事業所との連携

基礎体験活動を推進していく上で, 年間500件を超える多数の活動を提供してくださる事業所との連携を密にしていくことは, 体験の量的充実だけではなく質の向上においても大切である。今年度も, 基礎体験合同説明会を1回と, 基礎体験活動連絡会議を2回実施し, 基礎体験活動の趣旨や期待する学び, 募集手続き等についての共通理解を行った。また, 意見交換を通して学生によりよい基礎体験活動の学びの場や環境を作るとともに, 受け入れ事業所にとって

も大学と連携することによるメリットのある活動のあり方や、学生募集の方法について話し合った。

(1) 第1回 基礎体験合同説明会及び第1回基礎体験活動連絡会議

《平成23年4月20日(水)》

合同説明会 (14:30~15:30)	場 所: 第2体育館 参加者: 1年生174名, 事業所 27団体
連絡協議会 (15:45~17:00)	場 所: 大学会館2階第3・4集会室 参加者: 事業所71名 教育支援センター7名

入門期セミナーⅠを終え基礎体験活動への意欲が高まったところで、その翌週に基礎体験合同説明会を実施した。今年度も多くの受け入れ事業所が参加してくださり、今年度予定されている活動内容等について、1時間のポスターセッション方式で説明していただいた。学生たちも各ブースをまわり、実際に体験をさせていただいたり、活動内容の話を聞いたりして、今後どのような基礎体験活動に取り組んでいこうか真剣なまなざしであった。



また、第1回基礎体験活動連絡会議では、昨年度のアンケート結果をふまえ、1000時間体験学修のねらいである、豊かな人間性と実践的な指導力育成に向けての取り組み方針や、基礎体験活動の流れについて説明し、学生にとって有意義な体験活動にするために双方の共通理解を図った。

(2) 第2回基礎体験活動連絡会議

《平成24年2月21日(火)》

連絡会議 (15:00~17:00)	場 所: 模擬授業演習室他 参加者: 事業所 37名, 教育支援センター7名
-----------------------	---

第2回基礎体験活動連絡会議では、今年度の活動報告と学生の取り組み状況についての説明を行った。また、4年生から「4年間での基礎体験活動から学んだこと」について意見発表をしてもらい、参加していただいた事業所の方にも聞いていただいた。



その後のグループ別協議会は、主催団体別に学校関係、行政・社会教育施設、各種団体等の3グループに分けて実施した。各事業所からは、学生は意欲的に取り組んでいると評価していただいた。

また、学生の効果的な活用や学生の確保など、今後の取り組みに対する提案も多く出され、受け入れ先事業所同士の情報交換も図られた。

4. 実習セメスター

実習セメスターとは、3年生後期の教育実習（実習Ⅳ・Ⅴ）期間の9月から12月に実施している学外での学校教育体験であり、今年度で6年目を迎えた。教育実習での附属学校園での学びと、実習セメスターでの公立の幼小中学校での体験を互いに往還させながら、学校現場での学習支援の実践的な力を学生に身につけさせている。

7月上旬に実習セメスター説明会を開催し、実習セメスターの趣旨や目的などについて説明するとともに、受け入れ先の学校の先生や教育委員会の方に来ていただき、今の学校現場の様子や今までの実習セメスターに参加した過去の学生の話をしていただいた。

昨年に引き続き、延べ200名余りの学生が実習セメスターに参加をしたが、学校現場の先生方から学習支援の在り方や園児・児童・生徒とのかかわり方等等幅広くご指導いただき、学生自身にとっても大きな学びになったようである。また、学生の中には実習セメスター期間終了後も学習支援を継続している学生も少なくなく、目的意識をしっかりと持ち意欲的に取り組んでいた。

さらに今年度から母校での体験という形で、実習セメスターに参加した学生がいる。学校現場の中には、本学部1000時間体験学修について知っておられない学校も多く、今回実習セメスターという形で学生が行くことによって、少しでも本学部の基礎体験活動の取り組みを知っていただくよい機会であるとともに、今まで以上に基礎体験活動が広がっていくと考えている。



5. 学内資格認定制度

教育支援センターでは、「体験学修ピア・サポーター」「学校教育サポーター」「コミュニティサービス・サポーター」の3つの学内資格を設定している。今年度の認定者は延べ16名であった。内訳は表6の通りである。

資格認定者は、基礎セミナーにおいて自己の体験活動で得た学びを伝えたり、基礎体験活動において、様々な悩みを抱えている学生に対してアドバイスをしたりするなど支援を行ってきた。下回生にとって先輩たちの生の声は説得力があり、自分自身の数年後の姿と重ね合わせながら熱心に聞いていた。そして学内資格の価値が、学生相互においても認められるよい機会にもなっている。



表6 学内資格認定者数

学内資格名	認定者数	学年別人数
体験学修ピア・サポーター	9名	3年生2名 4年生7名
学校教育サポーター	3名	3年生0名 4年生3名
コミュニティサービス・サポーター	4名	3年生0名 4年生4名

Ⅳ 基礎体験活動におけるアンケートからみる成果

基礎体験活動における平成23年度の学生の学びはどのようなものであったか、その学修成果や取り組みの実態について、各学年のセミナーで行った学生の自己評価アンケート、ならびに受け入れ先事業所からのアンケートよりまとめた。

1. 基礎体験活動の評価について

基礎体験活動は、学部教育における教員としての学生の資質・能力の向上をめざし、地域の学校や社会教育施設との連携と協力により、学生により豊かな社会性や人間関係力を身につけさせ、教育的実践力を培うことをめざして実施しているものである。

基礎体験活動としてねらう力は、活動毎の振り返りに使用している基礎体験活動記録票や、プロフィールシートにも示されている、教師力10軸を基に作成したものである。そして、学年毎に実施している基礎体験セミナーでこの評価項目を基にして自己評価も行っている。

ここでは、1・2年生は1・2年生交流会セミナー、3年生は応用期セミナー、4年生は発展期セミナーで行った平成23年度の自己評価アンケートとともに、体験学修受け入れ先の事業所からのアンケートを基に、今年度の基礎体験の学びを振り返ってみたい。

2. 各セミナーで行った自己評価アンケート結果

平成22年度より基礎体験活動の自己評価項目を、それまで教育支援センターで独自で設定していた6つの視点の評価から、表7に示すに示すように、プロフィールシートの教師力10軸に合わせた10項目（軸）と、その具体的目標である20項目の評価項目に改訂した。

表7 基礎体験活動の自己評価項目一覧

1) 学校理解

- ①それぞれの学校や校種の特徴などを理解することができたか。
- ②教師の仕事を理解することができたか。

2) 子ども理解（学習者理解）

- ①子どもの発達段階の違いに応じたかわり方をすることができたか。
- ②幼児・児童・生徒への支援・指導・相談への対応などが適切にできたか。

3) 教科基礎知識・技能

- ①学習支援する教科等に関する基礎・基本的な知識や技能はあったか。

4) 学習支援の指導技術（授業実践研究）

- ①学習支援のための指導技術はあったか。

5) リーダーシップ・協力

- ①状況に応じて意見をまとめたり、リーダーシップを発揮することができたか。
- ②活動の趣旨を理解し、組織や集団の一員として積極的に役割を担ったり、与えられた役割を果たすことができたか。
- ③グループの仲間、教員、地域の方々と協力して活動することができたか。

6) 社会参加

- ①自ら進んで地域社会とかかわりをもち、主として学外での活動に積極的に取り組めたか。

7) コミュニケーション

- ①学校や地域の方々と積極的に関わりを持とうとすることができたか。
 ②場や相手に応じた挨拶や言葉遣いなどができたか。
 ③実際の活動場で子どもの話を聞き、それにきちんと答えることができたか。
 ④体験受け入れ先の方と論理的にコミュニケーションをとることができたか。

8) 探求力

- ①自分の長所や短所、これから伸ばしていきたい能力、克服すべき課題をきちんと把握できたか。
 ②仲間と協力して企画を立ち上げ、実施するところまで責任を持って行うことができたか。
 ③自らの課題や友達と協同する課題などを解決することができたか。

9) 社会の一員としての自覚 (教師像・倫理)

- ①社会の一員としての自覚と責任を持って行動することができたか。

10) リテラシー

- ①体験に関わる必要な情報を収集したり、体験活動に関する手続きをしたりすることができたか。
 ②参加した体験をふり返り、活動記録票をまとめたり、自己評価を整理したりできたか。

この10軸20項目の自己評価項目で、今年度の各セミナーの評価結果を表にまとめたものが、表8である。各評価項目とも、その結果を5段階評価の平均値で示している。

(表8中のⅠとⅡは、基礎体験活動への取り組みと有意義感の自己評価結果である)

表8 学生の基礎体験活動の自己評価結果

学年名・評価の実施時期 ・調査人数		5段階自己評価の数値の平均値			
		1年生 2012年2月 165人	2年生 2012年2月 172人	3年生 2011年12月 162人	4年生 2011年9月 165人
自己評価項目	Ⅰ 取り組み	3.6	3.2	3.3	3.6
	Ⅱ 有意義感	4.2	4.0	4.1	4.2
1	学校理解①	3.2	3.1	3.6	3.7
2	学校理解②	3.4	3.4	3.6	3.8
3	子ども理解①	3.7	3.7	3.8	4.0
4	子ども理解②	3.4	3.4	3.4	3.6
5	教科基礎知識・技能	2.8	3.0	3.1	3.3
6	学習支援の指導技術	2.9	3.0	3.3	3.3
7	リーダーシップ①	3.3	3.7	3.4	3.5
8	リーダーシップ②	4.0	4.0	3.9	4.1

9	リーダーシップ③	4.3	4.2	4.0	4.2
10	社会参加①	3.8	3.7	3.6	3.8
11	コミュニケーション①	4.0	3.8	3.8	4.0
12	コミュニケーション②	4.3	4.2	4.2	4.4
13	コミュニケーション③	3.7	3.7	3.7	3.9
14	コミュニケーション④	3.9	3.8	3.7	3.8
15	探求力①	4.3	4.1	4.0	4.2
16	探求力②	3.3	3.4	3.2	3.6
17	探求力③	3.6	3.5	3.4	3.7
18	社会の一員としての自覚	4.0	4.0	4.0	4.1
19	リテラシー①	3.8	3.8	3.7	3.9
20	リテラシー①	4.1	4.0	3.8	3.9

さらに、1～20項目の自己評価の平均値を学年別にレーダーチャートのグラフにしたものが、図1である。

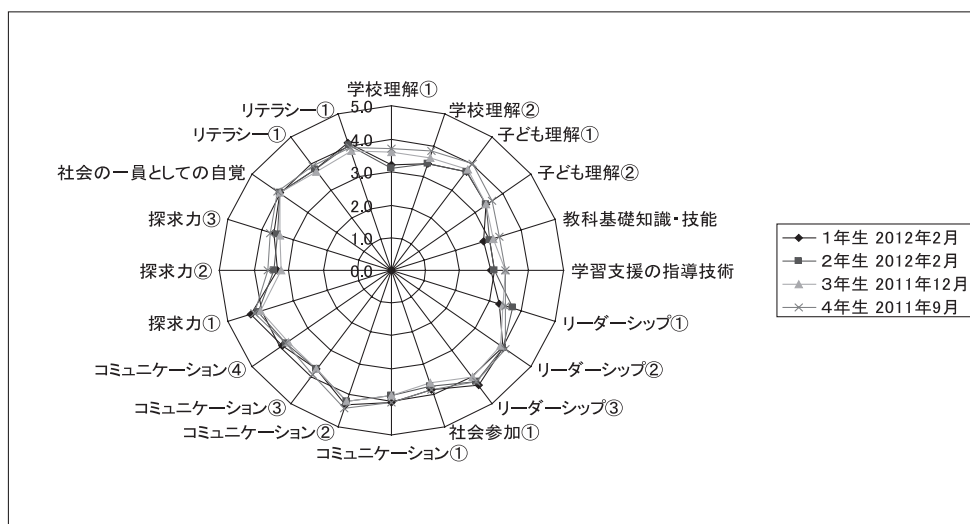


図1 基礎体験活動の自己評価結果グラフ

今回は同一学年の4年間の変化を示したデータではないが、図1のグラフからわかるように、学年が進むにつれて、全体的に各項目の平均値が少しずつ上がっていくのがわかる。平均値の高いものとして、4年生の平均値を見てみると4.4のコミュニケーション②（場や相手に応じた挨拶や言葉遣いなどができたか）、平均値4.2のリーダーシップ③（グループの仲間、教員、地域の方々と協力して活動することができたか）、平均値4.2の探求力①（自分の長所や短所、これから伸ばしていきたい能力、克服すべき課題をきちんと把握できたか）等があげられる。

逆に平均値の比較的低いものとしては、平均値3.3の教科の基礎知識・技能、学習支援の指導技術があげられる。これは、教科の基礎知識・技能や学習支援の指導は、教科の専門的な力量や指導経験が大きく影響するので、他の項目より自己評価が低くなったものと思われる。

また、学校理解①（教師の仕事を理解することができたか）のポイントが、2年生より3年生のほうが高いのは、3年生での教育実習や、3年後期での実習セメスターでの学外学校体験を経験した影響が大きいと考えられる。

次に、表8の基礎体験活動の「取り組み」の様子と、「有意義感」の評価結果について述べる。

基礎体験活動の取り組み状況では、学年毎に3.2～3.6と多少の平均値に違いがみられる。学年毎の5段階毎の割合を示した図2を見ると、2年生での2段階の割合が3割弱と他学年と比較するとやや多いが、全学年とも4段階の学生が4割弱から5割と多いことから、比較的熱心に取り組んでいる学生が多いことがわかる。

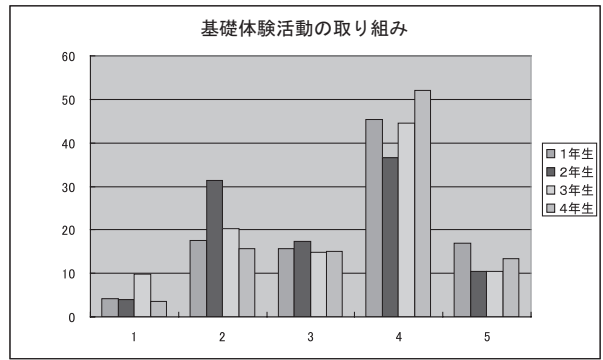


図2 基礎体験活動への取り組み

また、各学年の有意義感の回答結果では、4.0～4.2の結果であり、多数の学生が基礎体験活動に有意義感を持っていることがわかる。4年生での5段階評価の割合を詳しく見てみると、図3に示すように86%の学生が有意義であると回答している。

さらに、それぞれの理由の回答を調べてみると、次のような回答であった。特に、子どもや地域の方々の出会いを通して、学内だけの座学の学びだけでは得られない、体験を通した学びに価値を認めている学生が多かった。そして、自分の自己成長や進路選択にも役だったようである。

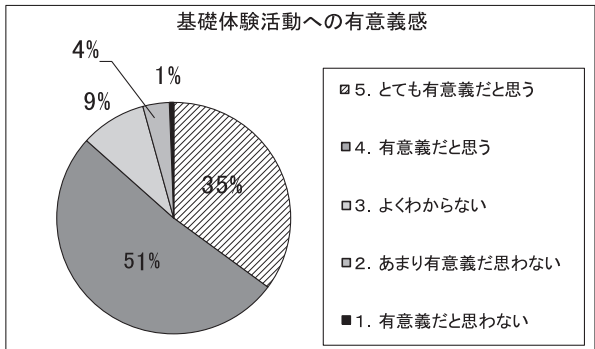


図3 基礎体験活動への有意義

○とても有意義・有意義だと思う理由

- ・座学だけでは得られない体験を通した学びがある。
- ・子ども達の支援を通して指導者側の自覚ができた。
- ・子どもや地域のいろいろな人と出会え、さまざまな経験ができるから。
- ・仲間の大切さや、地域の方々との連携など、人のつながりを感じることができた。
- ・自分の可能性の広がりや、適正を知ることができる。
- ・自分自身が成長できた。
- ・教師になるために必要なコミュニケーションスキルが身につくと思う。
- ・企画力や運営力も身につけられるから。
- ・定期的に子どもと触れ合うことで教職への意欲を持ち続けられる。
- ・教採の時に体験したことを話すことができ役立った。
- ・社会的なマナーや規律を学ぶことができたため。

○あまり有意義だとは思わない理由

- ・負担が大きかったから。
- ・別に有意義な活動をしたから。
- ・学生のモチベーションに差がある。

次に、学生の4年間の基礎体験活動を通して感じた感想例を示す。

教員になりたいという気持ちは一回生の時から変わりませんが、1000時間体験学修を通して思いに厚みが増したような気がします。実際に体験することで、自分が思い描いていた自分自身や教育というものの違いを知ることができましたし、やってみて、「もっと自分を高めたい」という思いが強まったと思います。教育の魅力や難しさを知ることができました。様々な活動を通し、子どもたち先生方や指導員の方の大変さに気づくこともでき、人との関わりを通し成長することができました。

4年生 女子学生

3. 受け入れ先事業所のアンケート

教育支援センターでは、毎年受け入れ先事業所にアンケートを送り、基礎体験活動の学生の取り組みのようすを毎年度末に評価していただいている。その調査項目の1つである、「学生は体験活動へ積極的に取り組んでいましたか」の回答結果をグラフにしたものが図4である。

例年「ア ほぼ全員が積極的に取り組んでいた」が60%程度であるが、平成23年度は75%と、さらに高い評価をいただくことができた。積極的な取り組みであるアとイを合わせると、例年90%を超えていることから、学生が体験活動に積極的に取り組んでいる様子がわかる。

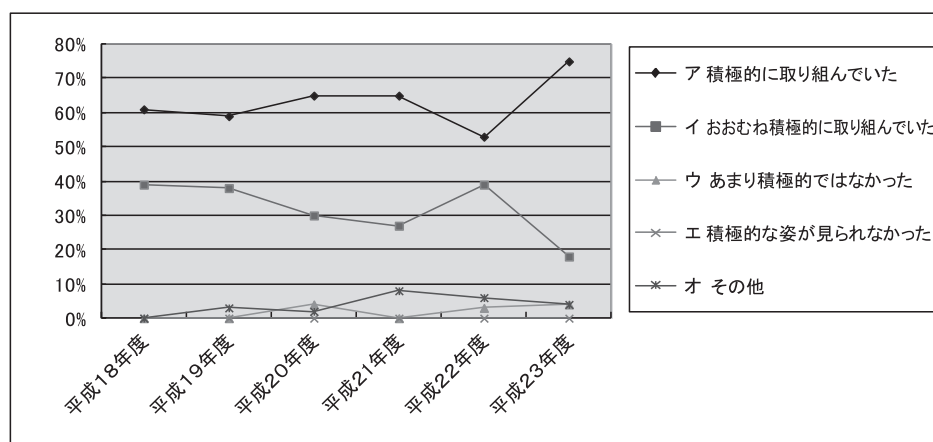


図4 受け入れ先事業所からの学生の取り組み状況のアンケート結果

次に、各事業所から送っていただいたコメントを紹介する。学生の意欲的な取り組みに対する好意的な内容が多かった。ただ、学生との連絡がうまく取れなかったり、時期によっては大学の定期試験期間と重なり、募集人数が確保できなくて困ったりしたという意見もあった。

□事業所からのコメント

○意欲があり、施設や活動にどんどん意見を交換してより良い活動ができています。事前の手続き上の話や、打ち合わせをする時になかなか電話が繋がらないので少し困っています。

○参加姿勢がよく、まじめに取り組んでくれてとても助かりました。体験回数が増えると慣れてきて、教え方は上手になるし、周囲にも気を配ることができてきました。ただ、季節・天候等により、お客さんの来場にかなりの差が生じ、インストラクターの仕事量も大きく違いました。いろいろと大変で申し訳なく思った時もありました。1年生から4年生までしっかりと頑張ってくれたので感謝しています。

また、「学生を受け入れるにあたり、どのようなお考えをもたれていましたか。(複数回答可)」の質問項目では、「事業所側の既存の活動を充実させるため」と、「学びの場としての活動提供」の両方を考えておられる事業所が9割近くあった(表9)。このように事業所の活動充実だけではなく、学生への体験活動の学びの場として位置づけてもらい、体験学修の場として意識して指導に当たっていただいていることがわかる。

表9 学生受け入れの考え方

		実数	%
ア	既存の活動を充実させるため	50	89.2
イ	新規事業を実施させるため	7	12.5
ウ	学びの場としての活動提供	49	87.5
エ	その他	0	0

(回答数 56事業所)

V 成果と今後の課題

今年度も多くの学生が、基礎体験活動に参加し、たくさんの学びを得た。学生の中には、教育実習で自分の課題を見つけ、それを克服するために学習支援の場を求め、基礎体験活動に参加したものもいる。自分自身を見つめ、向上していこうとする姿が、きっと学校現場に出てからいかされることと信じている。

各セミナーの自己評価と、受け入れ先の事業所からのアンケート評価を基に、平成23年度の基礎体験の取り組みをまとめたが、体験活動への取り組みもおおむね良好で、有意義感を感じている学生が多いことも分かった。学内での専門知識と、体験活動を通して学ぶ経験や指導技術などをうまくからめながら、今後も教師力育成のために基礎体験活動を充実させていきたい。

その一方で、基礎体験活動に対する学生の意欲の差が見受けられるのも事実である。「何のために、基礎体験活動に取り組むのか」「基礎体験活動に取り組むことによって、どのような力がつくのか」等を学生が再確認できるように、事前・事後指導やセミナーなどのあり方等を今後検討していきたい。

また、基礎体験活動の成果を可視化するために、活動毎の事後指導や、各期のセミナーでの自己評価の分析をするとともに、改善点等を見つめながら指導に役立てていきたい。

さらに、在学中の評価だけではなく、卒業後の学生の追跡調査をすることによって、基礎体験活動の学修成果が就職後の仕事にどのように役立っているのかを評価することも必要になってくると思われる。そうした追跡調査をすることにより、基礎体験領域で今後どのようなことに取り組んでいかなければならないのかが明確になっていくと考える。

(資料)

平成 23 年度 基礎体験領域における年間活動実施一覧表 附属教育支援センター

	活 動 名	対象	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学 内	基礎体験セミナー	1 年	入門期 セミナーⅠ 基礎体験 合同説明会	入門期 セミナーⅡ				スタートアップ セミナー					基礎体験交流 会	
		2 年						充実期 セミナー					基礎体験交流 会	
		3 年									応用期 セミナー			
		4 年							発展期 セミナー					
	だんだん塾講演会 (サポーターマイスター講演会)	共通				日野伸成 先生講演					梅田英樹 先生講演	山根伸志 先生講演	高尾雅裕 先生講演	
学 外	だんだん塾	共通	←	専任教員による学生支援活動 ①基礎体験学修の事前事後指導 ②日常的な相談活動 ③教採にむけての面接指導等										→
	島大ビビット広場	共通			第 1 回	第 2 回				出前ビビット	第 3 回	第 4 回		
	専攻別体験学修	専攻 学生	←	教育学部の各講座の専門性を生かした、講座主催による年間を通した体験プログラムの実施										→
学 外	NPO 法人ほか民間団体	共通	キャンプ、ジュニアリーダー養成研修、レクリエーション指導者養成、週末子ども体験事業 他											
	三瓶青少年交流の家		共同調査研究事業、研修事業及び施設ボランティア											
	島根県		適応指導教室、特別支援学校学習支援、定時制高校の学習支援、青少年教育施設での研修及び施設ボランティア 他											
	島根県松江市		適応指導教室、特別支援学校学習支援、青少年教育施設での研修及び施設ボランティア 他											
	出雲市		ウイーエンスクール、子ども居場所づくり事業 他											
	安来市		安来子ども探検隊 島田わんぱくクラブ											
	江津市		放課後子ども教室 他											
	雲南市		幼稚園体験 他											
	東出雲町		キャンプ											
	飯南町		放課後学習チューター											
	斐川町		夏のキャンプ											
	川本町		ウォークラリー大会											
	美郷町		キャンプ											
	海上町		科学教室、海のフェスティバル 他											
	鳥取県米子市		合奏指導、スクールプロジェクト 他											
	境港市		キャンプ、通学合宿											
	伯耆町		児童館支援活動											
	南都町		通学合宿、子ども会リーダー研修											
	日吉津村		キャンプ											
	大山町		キャンプ											
	鳥根県浜田市		キャンプ											
他	隠岐の島町		キャンプ											